

Promotion

# 「第53回日本人間ドック学会学術大会」

## 市民公開体験・展示コーナー「これが人間ドック」

自分の体と向き合おう！人間ドックで、自分の健康をチェック！

9月1日(土)・2日(日)に行われる

「第53回日本人間ドック学会学術大会」。

この学会では医療に携わる関係者向けのプログラムの他に、一般の方が体験できる人間ドックの体験コーナーや、展示ブースが設置される予定です。

そこで、本学会の学術大会長を務める和田高士先生に体験コーナーや、健康についてのお話を伺いました。

Check

### ■市民公開体験・展示コーナー「これが人間ドック」

開催日時	2012年9月1日(土)10:00～18:00 2012年9月2日(日)9:00～15:00
料金	無料(事前申込不要) ※希望者が多数の場合、お断りするケースがございます。
会場	東京国際フォーラム ガラス棟地下1階ロビーギャラリー
ポスター	<a href="#">PDF(1,371KB)</a>

#### —今回の学会について教えてください。

日本人間ドック学会は、1959年に設立されました。5,800名ほどの会員が、最新の研究成果を発表したり、様々な講演を行います。日本中から関係者の方々にお越しいただきますので、私達にとっても貴重な情報交換の場となっています。そもそも人間ドックとは、車に例えると車検のようなものです。車が車検によって事故を防ぐように、人間ドックは体全体を詳しくチェックして、病気や異常を見つけるシステムで、年間で約300万人の方々を受診しています。一般的な健康診断よりも多くの検査や診察をすることで、自覚症状がない病気でもいち早く発見できますから、これまで受けたことがない40歳以上の方にはぜひ受診していただきたいですね。



#### —体験コーナーの「これが人間ドック」はなぜ設置されようと思われたのですか？

今年からはじめる新しい試みです。これまでは市民公開講座などで特定の病気や健康習慣についての講演を行っていましたが、その場合は、既にその病気や健康に関心がある方が参加されるんですね。人間ドックは自覚症状のない方を対象に行う検査ですし、人間ドック自体が十分に普及しているわけではありませんから、どなたでも興味を持って参加していただける体験コーナーや展示を併設することにしました。会場では人間ドックはどのようなものなのか、どんな検査でどんな病気が見つけられるのかなどを、体験コーナーと展示で分かりやすくご紹介しますので、人間ドックの全体像がだまかに分かっていただけたと思います。

#### —具体的にはどのような体験ができるのでしょうか？

ロビーギャラリーの体験コーナーでは、どなたでも無料で内臓脂肪や筋肉量、血圧、血糖や視力などを測定できます。ほかにも乳がんのしこりを触って発見できる模型や、内視鏡を操作して、大腸のどこに異常があるのかを調べられる模型、特殊な光で血管を浮かび上がらせる装置なども展示します。

おそらくはじめて見るものばかりだと思いますので、自分はまだ大丈夫と思っている若い方にもぜひ体験してみたいですね。

乳がん触診モデル



© 京都科学

大腸内視鏡モデル



© オリンパスメディカルシステムズ株式会社

静脈可視化装置



© 株式会社テクノメディカ



—それらの検査ではどのような病気が発見できるのでしょうか？

例えば血圧測定では、高血圧かどうかわかります。血圧が高いと動脈硬化が進行しやすく、脳梗塞や心筋梗塞といった重大疾患にもつながりかねません。また、体組成の測定では内臓脂肪を調べて、メタボリックシンドロームになっていないかの手がかかりになります。

日本人の死因の第1位はがんなのですが、他にも心疾患や脳血管障害など命に関わる病気は自覚症状がほとんど無いことも多く、検査してみないと診断できないものが多々あります。健康な生活のためにも、まずはいまのご自身の健康状態を知っておくことがとても大切です。

事前予約も不要ですから、この体験コーナーをきっかけにご自分の体と向きあっていただければと思います。

—展示ブースの内容について教えてください。

人間ドックの検査項目とその検査によって発見される病気の一覧表や、人間ドックで見つかったがん・不整脈の状態を、正常な状態の写真と比較してご覧いただけます。

他にも、これまで人間ドックを受けた方による体験記のコンクール「受けてよかった人間ドック」の優秀作品も同じブースに展示します。私は普段から人間ドックの重要性を患者さんにお伝えしていますが、人間ドックを受けた方の実体験から生まれた言葉は新鮮で、とても感動しました。

皆様の気持ちが詰まった、素晴らしい作品の数々をぜひお読みください。



ロビーギャラリー



—先生は「一無・二少・三多」という健康習慣を提唱されていると伺いました。それはどのような習慣なのでしょう？

「一無・二少・三多」とは、一無(無煙:タバコを吸わない)・二少(少食と少酒)・三多(多動:体を動かす、多休:体を休めてリフレッシュ、多接:多くのものや人に接してストレスを発散)を心がけた生活です。

以前調査をしたのですが、人間ドックを受けた約9,500人で、この6つの習慣をより多く実践している方ほど生活習慣病の発症は軽減するという結果が出ました。

日本人は平均して3.6個実践しています。これらの習慣をひとつでも多く身につけて、健康な体づくりに役立てていただきたいですね。

本学会でも、この6つの習慣について、それぞれの分野のエキスパートが講演を行なう予定です。関係者である私達はその意義を熟知し、皆様へ「一無・二少・三多」をもっと広めていきたいと思っております。

—今回、はじめて東京国際フォーラムを会場としてお使いいただきますが、東京国際フォーラムについてどのような印象をお持ちですか？

やはり全国から多くの参加者が集まりますので、会場施設の質や利便性、周辺の宿泊施設などが整っている会場を選ぶことは、主催者としてのおもてなしのひとつです。今回は大小の会場をおりませず3,000人以上の受け入れが可能で、東京駅と羽田空港からのアクセスも良いということで東京国際フォーラムが1番の候補にあがりました。

個人的には 私は建築家を志していた時期もありましたので、ラファエル・ヴィニオリ氏が設計した作品で学会が開催できることをとても誇りに思っています。



—最後に来場される皆様へメッセージをお願いいたします。

「21世紀は予防医学の時代」と言われています。病気を早期発見・治療し、健康に暮らしていくためにも、これからの時代に人間ドックが果たす役割はとて重要になっていくと感じています。今年には人間ドックを知っていただくきっかけづくりとして、どなたでも参加・体験できる「これが人間ドック」コーナーをロビーギャラリーに設置します。体験や計測はすべて無料で、体験後にはお持ち帰りできるプレゼントもご用意しています。人間ドックをより身近に感じていただける機会になると思っていますので、東京国際フォーラムを訪れた際には、ぜひお越しください。

#### 和田高士

1956年生まれ。京都市出身。  
1981年東京慈恵会医科大学卒業、1985年同大学大学院修了。  
2000年に同大学健康医学センター長に就任後、2008年には同大学総合健診・予防医学センター教授、2009年には同大学医学研究科大学院健康科学教授を務める。  
公益社団法人日本人間ドック学会理事。



#### ■学術大会開催概要

名称	第53回日本人間ドック学会学術大会 <a href="http://www2.convention.co.jp/dock53/">http://www2.convention.co.jp/dock53/</a>
開催日時	2012年9月1日(土)9:00～18:00 2012年9月2日(日)8:00～15:00
料金	会員医師:13,000円、会員非医師:11,000円、非会員:15,000円
会場	ホールB7、ホールB5、展示ホール1、ロビーギャラリー、ガラス等会議室

#### ■お問合せ先

お問合せ先	第53回日本人間ドック学会学術大会 準備室 日本コンベンションサービス株式会社 <a href="http://www2.convention.co.jp/dock53/">http://www2.convention.co.jp/dock53/</a>
TEL	03-3508-1214
E-mail	dock53@convention.co.jp